

# JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y



3面

県営陸上競技場の  
新愛称を命名

(岩手県本部)

6-7面

JA全農チビリンピック特集

(広報・調査部)

Web版  
JA全農ウィークリーは  
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

News!

# お米と日本を学ぶ「お米かるた」を制作

## 都道府県銘柄の精米袋を取り札に、特徴や食味を読み札に

米穀部

全農はお米の魅力伝えるため、全国のお米を題材とした「お米と日本を楽しく学ぶお米かるた」(以下、「お米かるた」)を制作しました。遊び方を紹介する動画もYouTubeで公開しています。

全農が昨年8月に公開した「全農オリジナル米食味マップ」に対して、「全国のお米についてもっと知りたい」など多くの反響をいただいたことから、楽しみながら食育につながる「お米かるた」を制作しました。

47都道府県自慢の銘柄の精米袋を取り札に、そのお米の特徴や食味を読み札に



「お米かるた」の読み札と取り札

読み札

取り札



動画はこちら

記載。取り札の裏面では、都道府県の人口・面積・特産物や各地の「つぶより」の情報を紹介するなど、全国のお米と各地の魅力を楽しく学べる内容となっています。また、「全農の食の応援団」を務めるアイドルグループ「虹のコンキスタドル」が出演する遊び方動画の再生回数は3・4万回(5月23日時点)を突破し、多くの方々にご覧いただいています。全農は「お米かるた」を通じて、お米の魅力を伝え、お米の消費拡大につなげていきます。

News!

# 小学生向けの食農教育補助教材を贈る

## 下敷きにお米づくりカレンダー、パンフでSDGsも紹介

秋田県本部

秋田県本部は、2006年度から小学生向けの食農教育補助教材を製作し、県内の小学5年生と特別支援学校の児童・生徒に贈っています。今年度も小林和久県本部長とJAバンクあきたの安田雄幸支店長が4月14日に県庁を訪れ、補助教材を猿田和三副知事へ贈呈しました。

下敷きには、米作り学習で活用できるように「秋田のお米づくりカレンダー」と、米の生産量などを紹介した「秋田県の農業」を掲載しました。下敷きに記載した2次元コードは県本部のホームページにつながり、詳しい内容を確認することができます。

パンフレットでは、日本の食料自給率や食品ロスの問題などに触れながら、子どもたちが日頃の食生活で実行できる事例を持続的な開発目標(SDGs)と関連付けて紹介しています。

教材を受け取った猿田副知事は「日頃の学習や体験を通じて、子どもたちには秋田の農業を支える存在になってほしい」と話しました。



小学5年生と特別支援学校の児童・生徒に贈る下敷きとパンフレット



小林県本部長(左)と猿田副知事(中)、安田支店長



## 県営陸上競技場の新愛称を命名

親しみを込めて「純情産地いわてトラフィール」

岩手県本部



新愛称「純情産地いわてトラフィール」の除幕式

4月1日に同競技場で看板の除幕式が行われ、県や県本部、県スポーツ振興事業団など関係者約20人が見守る中、新看板が披露されました。

県本部の命名権取得は今回が初めてです。新愛称は、県本部が農畜産物をPRする際に長年使用してきた「純情産地いわて」と、陸上競技の英語「track and field」からイメージし

岩手県本部は、県が募集していた県所有施設のネーミングライツ（命名権）事業で、岩手県営運動公園陸上競技場の命名権を取得し、新愛称を「純情産地いわてトラフィール」と命名しました。



競技場内に設置された新愛称命名の看板

た造語「トラフィール」を組み合わせたもので、「県民に親しみを持ってもらいたい」という思いが込められています。

県本部運営委員会の小野寺敬作会長は「純情産地いわての思いをトラフィールに乗せて、県民に広く岩手の食と農業をしっかりPRしていきたい」と語りました。契約料は施設の維持管理や、環境美化に使われる予定です。

県本部では引き続き、地域社会の一員として強く「根を張る」活動を続けていきます。



## マラソンランナーの栄養補給サポート

「青天の霹靂」おにぎりや牛乳など県産品セットを振る舞う

青森県本部



盛りだくさん「県産品セット」

内容は、青森米「青天の霹靂」を使用したおにぎり、「ニッポンエール飛馬ふじグミ」、県産牛乳、県本部のアグリショップ青森店で使用可能な500円クーポン券

青森県本部が協賛する「2023 あおもり桜マラソン」が4月16日、青森市で開かれました。県外からのエントリーが可能となり、約3500人のランナーが参加しました。



ランナーに県産品セットを配布するミス・クリーンライスあおもり、ミスりんご

ファイニッシュゲートが設置された青い海公園にスポンサーブースを出展し、ミス・クリーンライスあおもり、ミスりんごの4人がランナー約2000人に「県産品セット」を配布しました。

県本部は食を通じてスポーツをサポート・応援する取り組みを進めています。同イベントへの協賛は、社会貢献活動の一環であり、今後も活動の幅を広げていきます。

# フレッシュおかやまお披露目

県産の果実・野菜・花きの魅力を全国へ発信

岡山県本部



2023年度フレッシュおかやまの(左から)野村光璃愛さん、板谷和胡さん、横溝結香さん

岡山県本部は4月7日、岡山県産の果実や野菜、花きをPRするキャンペーンスタッフ「フレッシュおかやま」の2023年度お披露目会を開きました。12月に行った書類選考と2月に開いた面接による審査で3人を選出しました。

23年度フレッシュおかやまに選ばれたのは、野村光璃愛(のむら・みりあ)さん、板谷和胡(いただに・わこ)さん、横溝結香(よこみぞ・ゆいか)さん。3月末までの約1年間、県内や東京、大阪などで行うトップセールスや百貨店での販売促進イベントで、岡山県産の果実や野菜、花きをPRします。

前任フレッシュおかやまから、たすきを受け継いだ3人は、「岡山県産のおいしい果実や野菜、美しい花きを全国にPRしていきたい」と抱負を話し、参加した職員から激励の拍手を受けました。県本部はフレッシュおかやまと一緒に県産農産物のPRに努めます。

# 「ハウスブドウ統一販売」スタート

消費者に山梨のおいしいブドウを届けます

山梨県本部



JAふえふき一宮北地区統合共選所で品質を確認する担当者

JAふえふき一宮北地区統合共選所で開かれたハウスブドウの出発式には、同JAの小池一夫組合長、JAハウスブドウ部会の野沢昇部会長、久保田健一副部会長、JA本部課長ら関係者が参加しました。笠井良彦副本部長は「生産者の皆さんが丹精込めて栽培したハウスブドウの初出荷を迎えることができました。本年度も山梨のおいしいハウスブドウを消費者にお届けします」とあいさつしました。

山梨県本部が県内の主産地JAと連携して運営する「ハウスブドウ統一販売」が4月23日から始まりました。

# 「全農リフォーム湯ったり～な」オープン

府内最大規模ショールーム エリア密着型の営業力強化へ

京都府本部



さまざまな商品を取りそろえる「全農リフォーム湯ったり～な」

「全農リフォーム湯ったり～な」は給湯器・こんろの専門店ですが、トイレ・キッチン・システムバス・洗面化粧台なども取り扱っています。給湯器37台、こんろ21台を展示し、実物商品を多数見ることが出来る府内最大規模の総合ショールームとなっています。

京都府本部は4月8日、亀岡市のLPガス亀岡直売所内に給湯器・こんろを専門としたLPガスショールーム「全農リフォーム湯ったり～な」をオープンしました。

ガスを中心としています。石油給湯器やIH・エコキュートなども取り扱っています。エリア密着型の「速い・納得・安心」のスピード対応で地域ナンバーワンを目指します。また、LINEでの簡単見積りもスタートさせ、一層のサービスの向上に努めていきます。

# 県内JAで最大規模の米倉庫を新設

## コスト削減と品質管理さらに徹底へ

JAいわて平泉は、岩手県の最南端の内陸部に位置し、一関市、平泉町の1市1町からなります。管内の総面積は1319.81平方キロで、世界遺産「平泉」をはじめ、日本農業遺産など、数々の歴史ある地域です。また、北上川流域をはじめ、栗駒山を源

流とする磐井川流域などの平たん地は農業生産の適地として水田の整備や農地の集積が進められています。

JAは「黄金の郷づくり」とくらしの活動の展開で、「持続し続けるいわて平泉農業」「食と農を基軸とした地域に根差した協同組合」の確立に向け取り組みを進めています。

営農形態は、四季を通して温暖で、地理的特性を生かし、米、園芸、畜産を柱に複合的な農業を展開しています。

### 新設「輝」倉庫から良質米を消費者へ

管内の農業倉庫は、老朽化による修繕費用の増加が課題となっていました。25



「金色の風」育苗巡回指導

力所ある米倉庫の再編と集約をし、新設倉庫の建設を進め、今年4月に落成しました。新倉庫は、愛称を全国から公募し地域の農業と未来を輝かせたいという思いも込め「輝(きらり)」と命名しました。

県内JAが所有する米倉庫の中では最大規模で、8467・20トンの米が貯蔵できます。2023年産米から新倉庫での集出荷が開始されます。新倉庫に米を集



「金色の風」サポーターによる産地ツアー

約することでコスト削減と品質管理の徹底を図り、より安全・安心な米が消費者に届くことを目指します。

### 動画で情報発信 米産地をアピール

水稻では、「ひとめぼれ」と県フラッグシップ米「金色の風」などのブランド確立に向け、栽培技術の向上を図る



米PR動画(生産地編)

とともに特別栽培米にも取り組み、安全・安心な米を消費地に届けるため、指導会を開催しながら良質米生産に努めています。

米の販売戦略の一つとして、今年初めてYouTubeで米産地のPR動画を制作し「いわて平泉米」の魅力を発信し産地のPRを行っています。

## JAいわて平泉 (岩手県)



概要	2023年2月28日現在
正組合員数	1万3621人
准組合員数	6238人
職員数	523人
販売品取扱高	95億6千万円
購買品取扱高	53億4千万円
貯金残高	1547億円
長期共済保有高	5187億2千万円
主な農産物	米、トマト、ナス、ピーマン、ミニトマト、キュウリ、花き、リンゴ、梨、イチゴ、シイタケ、畜産ほか

4年ぶり全種目開催!

# JA全農チビリンピック2023

晴天のもと約8000人が来場、  
豪華ゲスト陣とふれあい!!



親子で走る「親子マラソン」

JA Zenroh Weekly

特集

全農が特別協賛する第45回JA全農チビリンピック2023が5月5日のこの日に、横浜市の日産スタジアムなどで開かれました。今年で37年目の特別協賛となる今大会は4年ぶりに全種目開催で行われ、約8000人が来場し、高橋尚子さんから豪華ゲストとともに汗を流しスポーツを楽しみました。【広報・調査部】



聖火ランナー・ゲストによる聖火リレー



開会式であいさつする  
安田専務

## 開会式

開会式では全農の安田忠孝代表理事専務が「コロナ禍による行動制限が解除され、4年ぶりに笑顔の皆さんとお会いでき、とてもうれいです」とあいさつをしました。

聖火ランナー・ゲストと一緒に走って聖火リレーをし、聖火台に火がともされました。

## 競技

日産スタジアムでは、親子マラソンやミニマラソン、50m・100m走が行われ、子どもたちが日頃の練習成果を競い合いました。今年度から一輪車競技も新たに加わり、観客席からは大きな声援が飛び交いました。

5月3日から行われた「JA全農杯全国小学生選抜サッカー決勝大会」は熱戦の末、レジスタFC（埼玉県）が優勝し、4度目の頂点に輝きました。

## 卓球

港北スポーツセンターでは、「JA全農杯チビリンピック小学生卓球選手権大会」を開催。ホープス（5・6年生）、カブ（3・4年生）、バンビ（1・2年生）の各カテゴリー男女に分かれ熱戦を繰り広げました。

## お楽しみ広場

日産スタジアム西ゲート前広場では、「全農お楽しみ広場」を開催しま



新競技の「一輪車レース」



熱戦が続いた小学生卓球大会



サッカー大会の決勝戦



ゲストによるクイズ大会



優勝したレジスタFC(埼玉県)

情報発信

本会Twitter「全農広報部スポーツ応援」アカウントでは開催状況を都度更新、サッカーキング、日刊スポーツアカウントでは北澤豪さんの解説のもと「JA全農杯全国小学生選抜サッカー決勝大会」決勝戦をライブ中継しました。

ゲスト一覧

- 高橋尚子さん
- 北澤豪さん
- アニマル浜口さん
- 浜口京子さん
- 潮田玲子さん
- 狩野舞子さん
- 稲村亜美さん
- なかやまきんに君さん



表彰式では賞状と副賞を贈呈

表彰式

豪華ゲスト陣によるクイズ大会では、ゲストの登場に大きな歓声が上がりが、大いに盛り上がりました。

また、国産生乳を使用した練乳で作った「れん乳クッキー」、農協牛乳のサンプリングを行ったほか、全農の商品ブランドである「ニッポンエール」商品や神奈川県産飲料などの販売も行いました。

表彰式では、各種目の入賞者に全農の安田専務が副賞として、「黒毛和牛焼肉用」や「国産素材使用煮物にぴったりどんこ」、北海道産米「ゆめぴりか」、新潟県産米「新之助」などを贈呈しました。

各種目の参加者には、インスタントごはん、クリアファイル、「Apron」(5月号)などを渡し、子どもたちを激励しました。

全農はこれからも、子どもたちの健康づくりやスポーツ選手の育成をサポートしていきます。

全農Twitter  
「全農広報部スポーツ応援」  
アカウント



サッカーキング  
YouTube



TikTokでの配信

TikTokアカウント「JA全農チビリンピック」で、当日の競技の様様や参加選手のコメントなどイベントの様子を随時配信中です。



旬のメロンが色鮮やかな映えメニューに

## 直営飲食4店舗で「茨城県産メロンフェア」

全農は、北海道、宮城県、東京都の直営飲食店舗(4店舗)で6月20日まで「茨城県産メロンフェア」を開催しています。【フードマーケット事業部】

「メロン王国」茨城県のさまざまな種類のメロンを使用した色鮮やかなパフェやメロンサンドなどのデザートメニューを提供します。

茨城県産メロンは、全農が運営する産地直送通販サイトJAタウン「いいものいっぱい広場」でも購入できます。



いいもの  
いっぱい広場は  
こちら



みのりカフェ エスバル仙台で提供するメロンパフェ

フェア概要 期間 ● 5月20日(土)~6月20日(火)

実施店舗

【札幌】みのりダイニング札幌ステラプレイス店

提供品種: JAほこた「イバラキング」  
JA茨城旭村「クインシー」

【仙台】みのりカフェエスバル仙台店

提供品種: JA茨城旭村「アンデス」「エルソル」  
JA水戸「レノン」

【東京】みのりカフェ三越銀座店

提供品種: JA茨城旭村「アンデス」「エルソル」  
「クインシー」

【東京】みのり食堂三越銀座店

提供品種: JAほこた「イバラキング」「クインシー」

店舗情報

<https://minoriminoru.jp/shop/>  
をご覧ください。

※やむを得ない事情により、産地JAや品種を変更する場合があります。



## 「はだか麦のまろやか黒酢」新発売

ニッポンエール商品 生産量日本一の愛媛県産「はだか麦」を使用

営業開発部と愛媛県本部が連携し、愛媛県が36年連続生産量日本一となっている「はだか麦」を使用した調味酢「ニッポンエール はだか麦のまろやか黒酢」を開発しました。4月から県内の一部直売所で先行販売し、「JAグループ愛媛農畜産物消費拡大運動」(6~9月)の取扱商品として推進するほか、県外の直売所などにも積極的に提案し、「はだか麦」の消費拡大に貢献します。【営業開発部・愛媛県本部】

「はだか麦」は大麦の一種で、昔から麦みそや麦ごはんなどに使われ、最近では焼酎やビール、パンなどにも用途が広がっています。愛媛県本部では「はだか麦」の認知度向上のため、「はだかんぼう麦茶(煮出し用・ペットボトル)」に加え、新商品の開発を進めてきました。

「はだか麦のまろやか黒酢」は、国産原料に

こだわり、「はだか麦」を使用することで米の発酵臭もなく、黒酢本来のコクを残しつつ、昆布やかたお節、煮干しエキスを使用しまろやかな味わいに仕上げました。砂糖・食塩などで味付けする必要もなく、ピクルスや酢豚など手軽においしい料理が作れます。ぜひ、「はだか麦」を使ったまろやか黒酢をお楽しみください。



はだか麦のまろやか黒酢 500ml

JA全農の産地直送通販サイト

JAタウン ショップ紹介



### 新鮮ぐんまみのり館

群馬県太田市の水はけの良い土壌を有する藪塚地区で生産される「藪塚こだまスイカ」は、直径20号ほどのミニサイズです。1玉を2~4人で食べることができます。

果肉はギュッと締まってみずみずしく、シャリシャリとした食感です。到着後は風通しの良い日陰で保管し、食べる2~3時間前に冷蔵庫で冷やすとおいしく召し上がれます。

JA太田市スイカ部会の生産者が丹精を込めて育てた「藪塚こだまスイカ」をぜひお楽しみください。



藪塚こだまスイカ(JA太田市)2玉...  
5400円(税込み)

ご注文は  
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>  
▶ お問い合わせは ☑ [shop@ja-town1.com](mailto:shop@ja-town1.com)

